

○朴 美愛 任 栄子 郭 太基（世宗大） 成瀬信子（文化女子大）

目的 「生活韓服」というのは、伝統韓服を現代人が日常生活でも着装できるように、デザインおよび機能性を現代化させたものである。最近、このような動きは、日常着として、また学校、役所、サービス業などのユニフォームとして着られ、多くの企業がブランド化して、その規模は次々に大きくなっている。そこで、これらの「生活韓服」に対する韓国近辺の国々の人の意識を調べることを目的としている。

方法 試料は、同色系の伝統韓服と生活韓服を雑誌の写真から取り出し、服の丈、ポリウム感などをつとめて同じにして、一枚の中に2種類の写真を配置し、異なる2組を製作した。伝統韓服を基準にして生活韓服の評価をペアテストにより韓国、日本、台湾の女子大生を被検者として調査を行った。評価項目は伝統性、実用性、審美性などの60項目を設定し、5段階で評定を求め、2種の生活韓服に対する各国のイメージを比較検討した。

結果 1 多くの評価項目に対して、日本と台湾の差は小さく、韓国の評価はかなり差を与えている。2 生活韓服の伝統美に対する評価は、日本・台湾の評価より韓国の女子大学生の方が高いが、その評価は生活韓服の種類により差が見られる。3 実用性に対する評価は、韓国・日本・台湾ともに50%以上が実用性があると肯定している。4 生活韓服に対するイメージは、服種により異なり、韓国の女子学生は韓国的、東洋的、個性的であるイメージを抱いおり、日本・台湾の女子学生は西洋的、韓国的でない、素朴な、目立たないなどのイメージを抱いており、韓国と日本・台湾にその差が見られる。